



台湾訪問団同行記

【中】

今回の台湾訪問で大きな成果を挙げたのが鳥取県西部の観光、スポーツ関係者で構成するスポーツツーリズムPR団。3万人の会員がいる「台湾サイクリング協会」から、大山を舞台とするサイクリング大会「ツール・ド・大山」(県サイクリング協会主催)への視察団派遣の約束を取り付け、世界的な自転車メーカーのトップから来県への前向きな返事を引き出したのだ。

★実現した面談

「この機会を絶対にもにしたい」。自転車メーカー「ジャイアント・マニユファクチャリング」(台中

市)の劉金標会長との面談を前に、県西部総合事務所の市村節子企画員は表情を引き締めた。4度目の交渉でようやくアポイントに成功した今回の面談。PR団は事前に役割を決め、万全の構えで臨んだ。

劉会長が一代で築いたジャイアント社は、世界のトップブランドの受託生産も手掛ける業界最大手。劉会長は2007年、73歳で台湾一周約9300kmを自転車で走破し、台湾の自転車チームの火付け役ともなった人物だ。

大山や中海など景観を生かしたスポーツツーリズム(スポーツ観光)の拠点を目指す県西部にとって、ツ

スポーツツーリズム売り込め

平井県知事

森の国社長



「伝説の人物」劉ジャイアント会長

ール・ド・大山などの催しは、グイヤモンドの原石」。ジャイアント社の協賛や台湾選手への参加が実現すれば、国際的知名度は劇的に増す。

★目の色変わる

訪問団には自信があった。10日にPR団が訪問した台湾サイクリング協会

台中のジャイアント本社にて(台湾)

で、大山中海観光推進機構の石村隆男理事長がタブレット型端末「iPad」(アイパッド)で大山の新緑や美保湾から望む大山の朝日などの写真をスライドで紹介すると、協会関係者の目の色が変わったからだ。

大山周辺の景観に、同協会の何麗卿秘書長は「海外の自転車ツアーに組み込みたい」と即答。5月開催のツール・ド・大山に視察団を派遣し、来年は選手団を出場させる意向を示した。

米子市の皆生温泉で旅館業を営む岩崎康朗市議は「これまで海外で行った誘致活動の中でも、経験したことのない好反応」とし、大山の景観は台湾の自転車愛好家の心をつかむと確信した。

★連携プレー奏功

劉会長との面談は11日。早速、PR団長の石水正奉

県サイクリング協会会長が「あなたに会いたくて来ました」とラブコール。大山でダウンヒルサイクリングを企画する森の国(大山町赤松)の伊沢大介社長は「うちで使う自転車はジャイアント製」と売り込んだ。平井伸治知事やトリアスロニアアジア王者に5度輝いた日本のスポーツ観光マイスター、小原さんも来県を呼び掛け、最後に石村理事

長がiPadで自慢の景観を紹介した。PR団の「連携プレー」は劉会長の心をつかみ、「真面目に考える。日本人を通じて連絡する」と、来県を前向きに検討する言葉が飛び出した。

小原さんは、海拔0から3200mまでを自転車で駆け上がるヒルクライム大会への招待も受け、面談は大成。劉会長の来県がかなえば現地マスコミの帯同は確実。台湾へのPR効果も絶大だ。台湾の自転車愛好家が大山を訪れ、ブナの木々の間を疾走する姿を想像し、一行は笑顔であふれた。

自転車メーカー好反応

トップ来鳥に前向きな返事